

夢のボートレーサーへ  
ボートレース好きな父に連れられて、幼い頃からボートレース場に遊びに行っていました。観覧席から見たレーサーたちの激しいせめぎ合い、ガソリンと海水の匂い、エンジンの排気音が原体験となり、物心が付いた時にはレーサーになることを夢見ていました。

レーサーになるためには、倍率が20倍とも30倍とも言われる養成所の試験に合格しなければなりません。私は高校3年生の時に5回目の挑戦で合格し、卒業を待つことなく入所しました。養成所では、

# BOAT RACER

日本モーターボート選手会 香川支部所属

## 谷口佳蓮さん

憧れていた世界。  
毎日が楽しい



### Profile たにぐち かれん

2001年 村松町生まれ  
松柏小→三島東中  
三島高校在学中にボートレーサー養成所に入所（127期）。  
2020年11月にデビュー。全国24か所のレース場で年間約150レースに出場する。  
兄・知優さんもレーサーとして活躍する。



レース中の谷口選手

### 100分の1秒の世界を生きる

また時の喜びと感動は、今でも鮮明に覚えています。

ボートの操作技術やエンジンなどの整備技術を1年間掛けて学びます。携帯電話は使用禁止、定期的に行われる試験に合格しなければ強制退所という厳しいルールの中で、「勝負の世界で生きる」ことの厳しさを叩き込まれました。

初めてのレースは養成所を卒業してから1か月後、幼い頃から通っていた丸亀ボートレース場でした。

結果は6着。悔しさはありませんが、夢を叶えた達成感の方が強かったです。それから1年後、愛知県の常滑ボートレース場で初めて1着になりました。初勝利を祝う「水神祭」で、先輩から水面に投げ込む

### 故郷の応援を胸に ボートレースの最高峰へ

ひレーサーたちの100分の1秒の駆け引きに注目してください。

地元に帰ると、多くの方が声を掛けてくれます。「レース見たよ」や「次も頑張って」という「ひとつ」の言葉が、私の原動力です。ボートレースは、性別や年齢に拘わらず実力があれば誰でも活躍できます。ボートレースの最高峰「SGレース」への出場という新たな夢を叶えるために、生涯を懸けて自分を磨き続けていきます。

ボートレースは、競馬のようにゲートが開いて一斉にスタートするのではなく、スタート直前の「待機行動」と呼ばれる時間に、助走しながらコースを取り合います。スタートを知らせる大時計の針が0を指した瞬間に、どれだけスタートラインの近くに居られるかが勝敗を左右します。このスタートタイミングの安定性が、私の武器です。レースをご覧になる時は、ぜ